

能登半島地震を踏まえて、
若狭の原発群は運転を中止すべき！

2024年

2/4日

14:00~

緊急学習講演会

敦賀市あいあいプラザ
1F あいあいホール

福井県敦賀市東洋町4-1 ☎0770-22-1700

YouTube ライブ配信します。

<https://youtube.com/live/3HIDBM2rkBw>

(チャットにて質問を受付します。) You Tube



プロフィール

立石雅昭・新潟大名誉教授は、地質学の立場から、原発立地の地震や活断層問題にも取り組んできました。2012年におこなった北陸電力志賀原発周辺の地質調査データをもとにまとめた論文は、2019年10月の「地球科学」に掲載され「地球科学賞」を受賞しています。

講師：

立石雅昭氏

(新潟大学名誉教授)



共催

原発問題住民運動福井県連絡会
連絡先：福井県福井市光陽 3-4-18 (福井県民主医療機
関連合会内) 林広員 電話 090-8263-6104

原発住民運動福井・嶺南センター
連絡先：福井県敦賀市新和町 1-9-1-307 山本雅彦
電話 090-4323-4199 【発行日：2024年1月27日】

若狭湾周辺の段丘分布

FO-A~FO-B断層南端~熊川断層西端における調査結果

適合性に係る審査委員会
(第27回)
資料3-3 p.140両掲



- ・内外海半島の双児崎には、渡辺委員・中田氏の指摘のような「リニアメント」は無い。
- ・FO-A~FO-B断層の延長部では、渡辺委員の指摘のような東側沈降・西側隆起を示す地形・地質学的な証拠は無い。
- ・小浜湾東部の指摘箇所(原子力安全・保安院、渡辺委員・中田氏)には活構造は無い。
- ・熊川断層は、小浜市平野付近以西には延伸していない。(FO-A~FO-B断層と熊川断層の離隔は約15km)

この図には、M1面(中位段丘: 12~13万年前の温暖期に堆積)の高度が書き込まれている。

堆積した12~13万年前は現在の海面とほぼ同じ高さで堆積したものが、現在はこの図では10数mの高さになっている。

この隆起をもたらした

要因を明らかにすることが必要である。

能登半島地震と同様、地震のたびに数10cmから数m、隆起し、それが何度も繰り返してきたのではないかと。それでは、その地震を引き起こした断層はどれか。各断層の性状(逆/正、横ずれ)と動きの解明が必要である。

短くても、地表に活断層として、痕跡が残っている以上、Mクラスの地震が起こっている。さらに、地表に残っていなくても、地下では一つの断層群として連続している可能性もある。この連動性を検証する必要がある。

(作成: 立石雅昭氏)